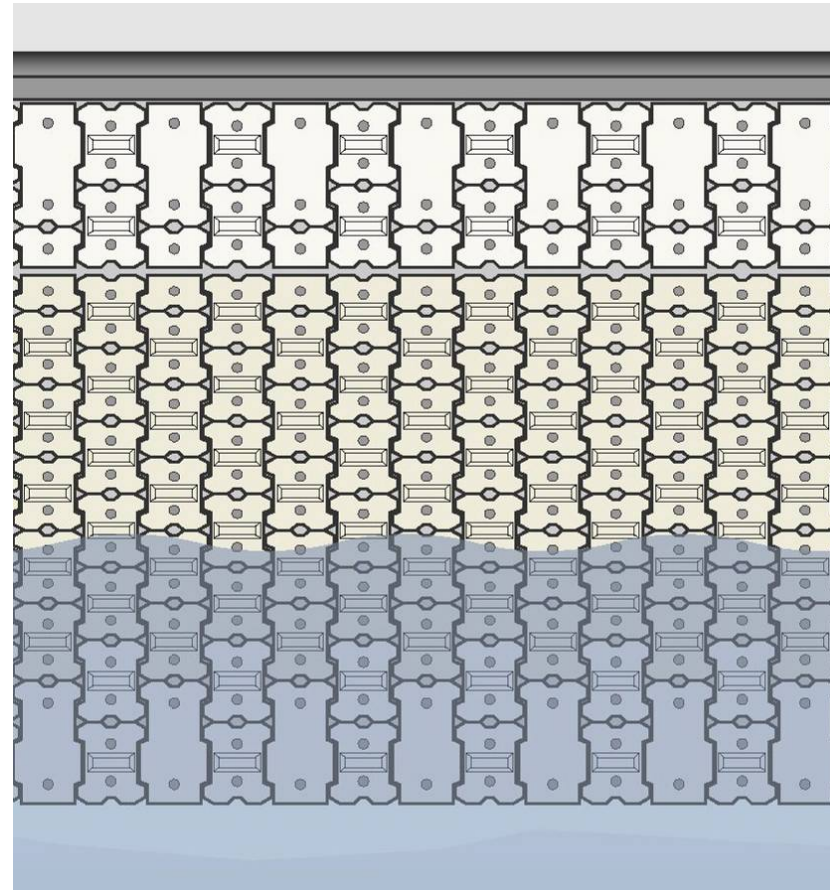


(4) 視覚的イメージ (平面図) (ステップ3)

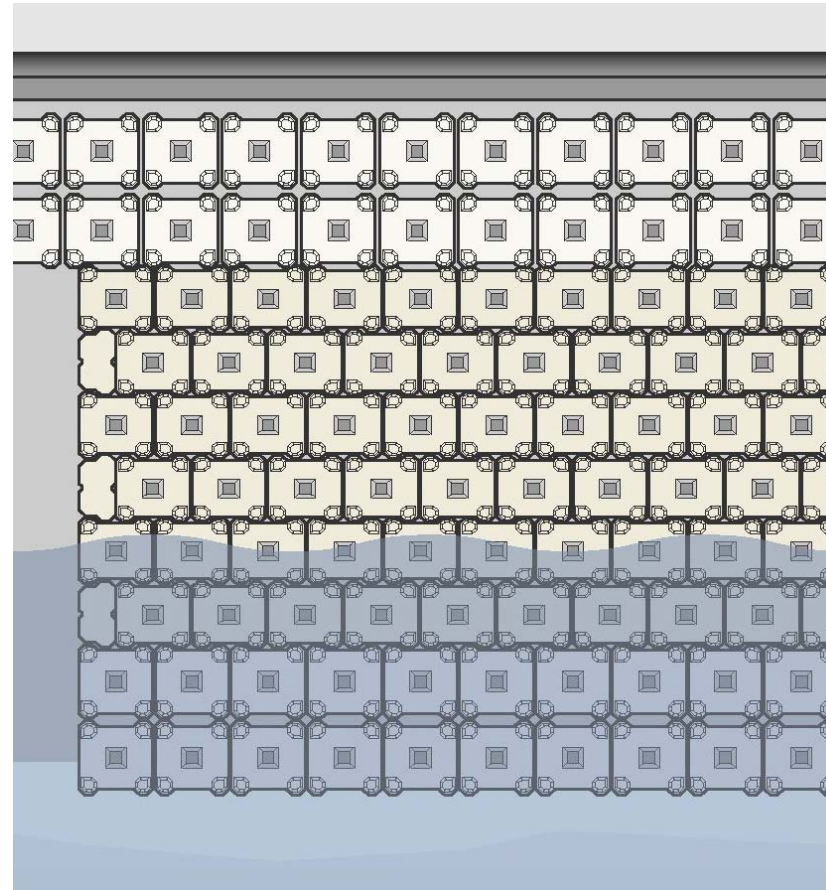
ブロック配列状況を視覚的に捉えられるように、前節で抽出したタイプの代表的なブロック配列をもとにした平面図を図2に示す。なお、参考として標準配列を掲載する。

■千鳥配列：D 1



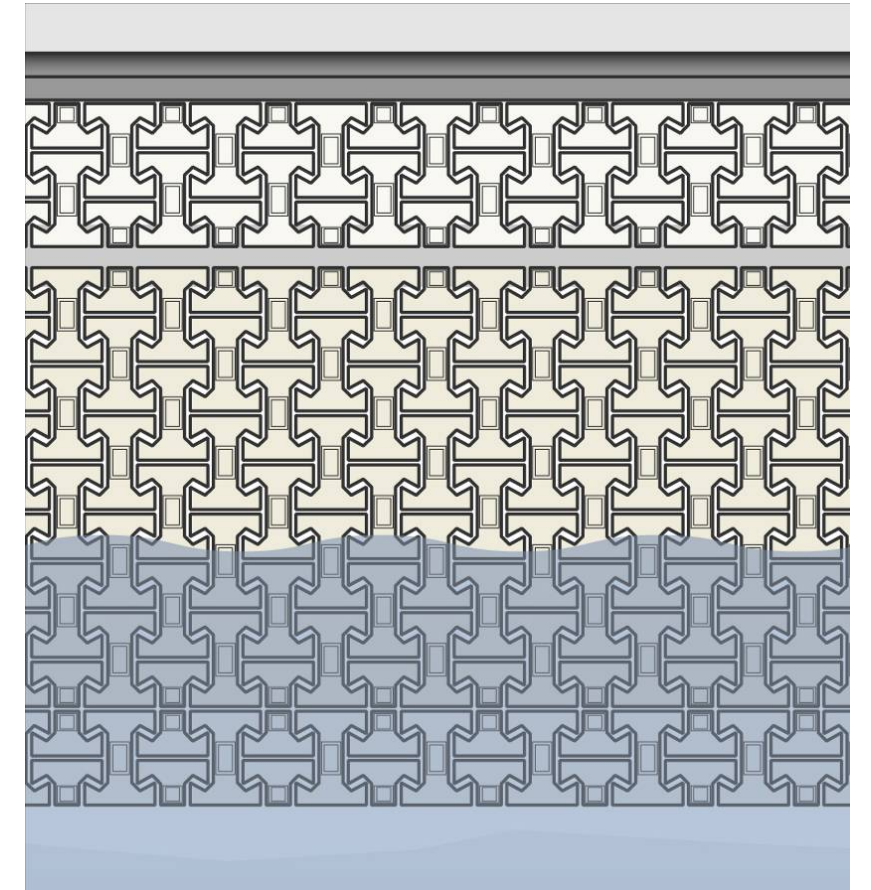
横方向には千鳥配列であるが、上下方向では直線状に目地が通る。

■千鳥配列：D 2



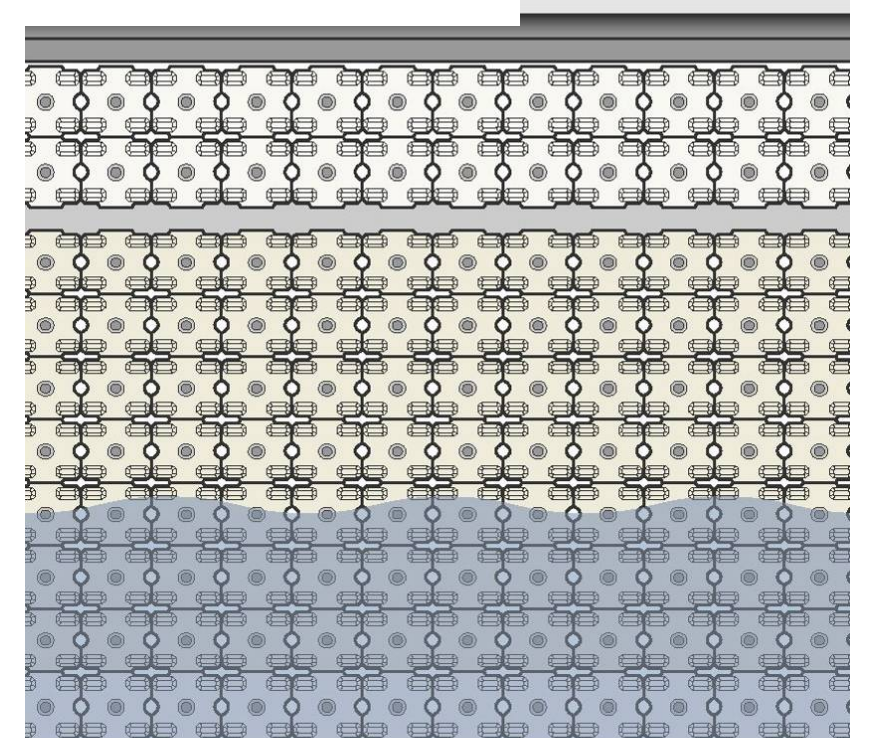
上下方向には千鳥配列であるが、横方向では直線状に目地が通る。

■千鳥配列：D 3



上下方向、横方向ともに目地が通らない。

■ (参考) 標準配列：B 2 4



上下方向、横方向ともに目地が通る。

図2 ブロック平面図

(5) 総合評価 (ステップ4)

抽出したタイプの代表的なブロックについて、総合的な観点(波の減勢効果、施工性、安定性、景観への配慮、生態系への配慮、航行船舶への影響)から評価を行った。その結果を表3に示すが、大きな相違点は見られなかった。今後、詳細設計を行うに当たり、これらのブロックの中から経済性等を考慮しながら選定していきたい。

表3 1T目2割被覆ブロック比較

護岸工法	突起付き大型(2t)・千鳥配列ブロック		
ケースNo.	ケース1(D1)	ケース2(D2)	ケース3(D3)
断面形状			
施工状況・規格寸法	 ■基本寸法 L1740*B1460*H700(突起部を除くブロック厚s410)	 ■基本寸法 L1580*L1580*H550(突起部を除くブロック厚b390)	 ■基本寸法 L2000*b1500*(h+i)600(突起部を除くブロック厚(h-q)450)
工法の特徴	・ブロック相互のかみ合わせによって、配列したブロックが一体構造となる。 ・ブロックの突起部を下面にして敷設することで、捨石上での施工性、安定性を確保する。	・ブロック相互のかみ合わせによって、配列したブロックが一体構造となる。 ・ブロックの突起部を下面にして敷設することで、捨石上での施工性、安定性を確保する。 ・通常のかみ合わせ配列では、上下に半ブロックが生じるが、90度回転させることで縦断方向の端部に半ブロックがくるようにした。	・ブロック相互のかみ合わせによって、配列したブロックが一体構造となる。
波の減勢効果 (波の打ち上げ)	・ブロック表面に凹凸(突起20cm)を有するため、波の減勢効果は比較的高いと考えられる。	・ブロック中央に孔を有するが、表面はほぼ平滑(突起9cm)であるため、一定の波の減勢効果はあるものの、他に比べれば低いと考えられる。	・ブロック表面に凹凸(突起10cm)を有するため、波の減勢効果は比較的高いと考えられる。
施工性	・ブロック底面に突起(足:9cm)があるため捨石上の座りが良い。	・ブロック底面に突起(足:7cm)があるため捨石上の座りが良い。	・ブロック底面に突起(5cm)があるため捨石上の座りが良い。
安定性	・ブロックに突起(足)があるため捨石上の座りが良い。	・ブロックに突起(足)があるため捨石上の座りが良い。	・ブロックに突起があるため捨石上の座りが良い。
景観への配慮	・表面に突起と孔を有することから、コンクリート構造物としての見えが大きい。 ・横方向には千鳥配置であるが、上下方向では直線状に目地が通る。	・表面に突起と孔を有することから、コンクリート構造物としての見えが大きい。 ・上下方向には千鳥配列であるが、横方向では直線状に目地が通る。	・コンクリート構造物としての見えはある程度ある。 ・上下方向、横方向ともに目地が通らない。
生態系への配慮	・ブロックに孔を有するため、生物が孔に捕捉され定着しやすいと考えられる。	・ブロックに孔を有するため、生物が孔に捕捉され定着しやすいと考えられる。	・ブロックに孔を有しないため、生物の付着や定着は目地部に限定される。
航行船舶への影響 (反射波)	比較的波の減勢効果が高いことから、反射波の抑制も期待できるため、船舶の航行への影響は小さいと考えられる。	比較的波の減勢効果が高いことから、反射波の抑制も期待できるため、船舶の航行への影響は小さいと考えられる。	比較的波の減勢効果が高いことから、反射波の抑制も期待できるため、船舶の航行への影響は小さいと考えられる。

注1:評価欄の青文字は良好な評価、赤文字は良好でない評価。
注2:ブロックの基本寸法の記号はメーカーカタログによる。